

## 川組の信仰碑



翼を張り、火焰光を負い、白狐の背に立つ烏天狗面の像は「飯繩権現」といい、また、秋葉大権現とも秋葉様とも呼ばれる火伏せの神です。度々火災に見舞われた月館の人々がとくに厚く信仰した神で、現在も川組（館ノ腰、梶内、酒呑ノ入）の信仰の要となつています。寛政九丁巳（一七九七）三月十八日の造立です。

秋葉様の右側には、大神宮（天保十五年）（一八四四）左に湯殿山（天明八年）（一七八八）巳待塔（安政四年）（一八五七）のほか多くの石碑が建てられ、信仰の有様を伝えていきます。

以前は、四月三日が祭日で、村社の宮司を祭司として祈禱後、持ち寄りの酒肴で宴をはりました。この風習は江戸時代からのものといわれます。当日、子どもたちが、紙の旗に「神武天皇祭」と自分の名を書き奉納した時代もありました。現在では「秋葉神社祭」となり、七月二十七日に例祭が行なわれています。